



こかげのにちじょう⑦

～過疎地の県立高校への進学～

鳴海 明敏

2月某日

中1の4月に入所し、約2年間学園で生活して、中3の4月に家庭引き取りで退所したりエさんから、高校受検に無事に合したとの電話。

両親と、姉、本児と双子（二卵性）で生まれた弟の5大家族。入所前は、母親に対して、蹴ったり、噛みついたり、興奮すると1～2時間も暴れていたという。入所してからは、距離を保ちながら、少しずつ交流をして、なんとかお互いに折り合えるようになり、中3の4月に家庭引き取りとなった。退所後、時々電話をくれていたが、近所に住む母方の祖母の家に逃げ込みながら、なんとか中学校にも通っていた様子。

高校受検が迫り、母親が見つめてきた高校は、他県の過疎地にある県立高校。過疎化で子どもの数が減少し、他県からも積極的に受け入れするようになったという高校。寮があって、個室で、月4万円。寮から学校までは歩いて通うということらしい。

せっかく親元に戻ったのにも思うが、姉も、不登校で引きこもり、双子の弟も多少発達遅れがあるということだったので、独立心が旺盛で、都会の空気が嫌いな彼女のためには、いい選択だったのかもしれない。学園生活の中で、彼女は母親と一定の距離を置きながらいい関係を維持する、とすることを学んだということなのだろう。

2月某日

ゲームのことで親から注意されると暴れたり、通信制高校のスクーリングに通えないなどの理由で入所したマサオくん。スクーリングのために自宅に外泊（校舎が親元にあるので）させたところ、そのまま帰園を拒否したことから、しばらく措置停止となっていた。

その後、スクーリングに行くいかないで母親ともめて、母親が突き飛ばされたり、警察を呼んだりということがあって、結果的に彼は学園に戻って生活している。

学園での生活は、自分の部屋に居ることが多く、今のところ何も問題はない。通信制高校のスクーリングには行けていないが、課題を無事に提出したので進級は出来るとのこと。問題は、4月以降のスクーリングだなあ。（了）